

令和2度 第1回 幸田町総合戦略推進委員会 議事録

○日 時：令和2年9月29日（火）午後2時～3時40分

○場 所：幸田町役場4階 第3第4委員会室

○出席者：委員及びオブザーバーの計14人、町事務局等13人

○協議内容と主な意見等

「幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における数値目標及び交付金事業に対する評価とともに、次期計画（案）の内容について、委員から以下のようなご意見をいただきました。

●数値目標（K P I：重要業績評価指標）について

- ・幸田町の成長エンジンは税収で、K P I と税収の相関を見ていくと、K P I の適切さが判断できるのではないかと。

●交付金事業について

□低温プラズマ事業

- ・最後はコストが課題なので、商業ベースに乗れる機器の価格設定が必要。

□多世代交流施設

- ・幅広い世代で子どもたちを育てる環境があることは良い。

●次期計画（案）について

- ・町の人口増加には外国人の影響があることを踏まえ、外国人を含めたビジョンや戦略を検討してはどうか。
- ・「なめらかなまちづくり」を継承・発展させ、多様な立場にある人の分断状況を解消していく（新住民と旧住民の交流促進、外国人とのギャップの解消など）ことを考えることが必要ではないかと。
- ・人口が増え、新しい人が増えると、昔からの風習がつかえず苦勞する。
- ・交流人口拡大に向けたロケツーリズムや空き家等利活用の取組みは旧集落を活用することが多く、子どもの教育と絡めて地域の魅力向上や価値観の共有ができるのではないかと。
- ・総合戦略の方針にある「第3子が安心して産める」という言葉の意味は、子育て環境だけでなく、まち全体がよくなった結果、第3子が安心して産めるようになるという意味を込めている。
- ・新しい住民が、旧住民の集まりの場面に出てきていただくような施策をしていく必要があると思う。
- ・総合戦略の新しい取組みに対して、中には変化を嫌う人もいると思うが、次世代を担う子どもたちのために、声をかけながら進めていければと思う。
- ・攻め（新しい施策）と守り（災害対策等）の両戦略でコミュニティの形成を力強く実現することを考えながら、戦略を見直していきたい。

以 上